

セラミックヒーターの交換方法

ALCOTT(AL-20 ～ AL-22)

販売店様、サービスマン様向け

本マニュアルは、販売店様及びサービスマン様が対象です。
ユーザー様向けの取扱説明書ではありません。

セラミックヒーターの交換方法

必要な工具類

- プラスドライバー(2番、柄の短いドライバーがあると便利です)
- ニッパー(結束バンドの切断に必用です)
- 結束バンド(80～100mm程度)
- ペンチ、プライヤー
- スケール
- 扉開閉レバーまたは6mmの六角レンチ(扉の開閉に必要です)
- 清掃用の掃除機、ウェス、養生材等

作業と同時にメンテナンス等をされる場合は、作業に必要な道具を準備して下さい。

作業に当たっての注意点

- 作業はストーブが停止して冷えた状態で行ってください。
また作業の前にストーブの電源をコンセントをから抜いてください。
- ストーブの側面、作業内容によっては背面から手を入れての作業となります。
十分な作業スペースを確保してください。
- 作業スペースが確保できない場合、ストーブ本体を給排気筒から外して作業スペースを確保してください。
ストーブ本体を給排気筒から外す場合は、本体や給排気筒から灰が落ちます。
作業前に床を養生してください。
- ストーブ内部は狭く、構造上尖った部品があります。中に手を入れる際は怪我等に十分注意して作業してください。
- 作業が終了したら必ずストーブの試運転を行い着火から消火まで正常に動作するか必ず確認してください。

セラミックヒーターの交換方法

セラミックヒーターの交換作業は、ストーブの左からの作業となります。本体の左側に十分なスペースをとってください。作業スペースが取れない場合は、本体を給排気筒から外してください。

また作業の際はストーブが冷えた状態で電源をコンセントから抜いてください。

1 左のサイドパネルを外す

左のサイドパネルを外す前にダンパー先に取り外します。ダンパーは反時計回りに回すと外れます。

次にストーブ背面のネジ(写真赤丸の個所)を外して左のサイドパネルを取り外します。

サイドパネルは後ろを少し横に開いてから背面側から引くと外れます。



セラミックヒーターは写真の青丸の個所に取付られています。



⚠ 注意

ALCOTTの場合、ストーブの右側からは給気ダクトがあるためヒーターの交換はできません。

必ずストーブの左側から作業してください。



セラミックヒーターの交換方法

2 ヒーターの配線を外す

ヒーターの配線を外します。配線の色は白色で極性はありませんが、他の機器への挿し間違いに十分ご注意ください。



3 ヒーターの固定金具を外す

ストーブ奥側の固定金具のビス(写真赤丸の箇所)を取り外して固定金具を外します。

※ストーブ前面側の固定金具は取外す必要はありません。ネジ等を下の送風ファン内部に落とさないようにしてください。必要であればヒーターと送風ファンの間に厚紙等を入れて作業してください。



4 ヒーターを取外す

ヒーターをストーブ背面側に引き抜いてください。

ヒーターカバー内部に灰等が堆積、固着している場合は、ヒーターを交換する前にカバー内部を清掃してください。

⚠ 注意

ヒーターカバー内部に灰等が残ったままだと着火に時間がかかったり、ヒーターの消耗が早くなることがあります。



セラミックヒーターの交換方法

5 ヒーターを交換する

交換するヒーターを差込み固定金具でヒーターを固定してください。ヒーター後部のリブを固定金具で挟むのが正しいおさまりです。



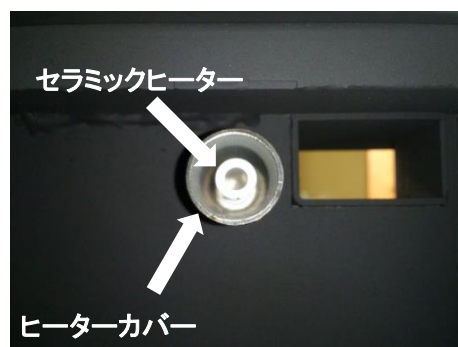
6 ヒーターの位置を確認する

ヒーターを固定したらストーブ前面からヒーター本体がヒーターカバーの中央にあるか必ず確認してください。

ヒーターがヒーターカバーの中央でない場合は、固定金具で調整してください。

⚠ 注意

カバーに接触していたり中央からズレていると着火不良を起こしたり、ヒーターの消耗が早くなる事があります。



7 ヒーターの電源を接続する

ヒーターの電源を接続します。電源の端子は必ず奥まで挿し込んでください。

※試運転を行いますので配線はまだ束ねないでください。



セラミックヒーターの交換方法

8 試運転を行う

必ずストーブの試運転を行い、着火するかを確認してください。

⚠ 注意

ストーブ本体を給排気筒から取り外した場合は必ず給排気筒に接続してから試運転を行ってください。

給排気筒に接続しないで試運転をすると排気の煙が室内に排出され危険です。



9 サイドパネルを取付ける

ヒーターの配線を元通りに戻したら、手順1とは逆の手順でサイドパネルとダンパーを取付けます。

⚠ 注意

ストーブ内部の配線はモーター、送風ファン、排気ファンの回転部分に接触しないようにしてください。配線が回転部分に巻き込まれて配線が断線したり機器が故障することがあります。

サイドパネルに配線が接触しないようにしてください。配線が接触していると内部の振動がサイドパネルに伝わり異音の原因になります。

